

令和6年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

大 学 名	慶應義塾大学	タイプ	A
事 業 名	日欧が相補的に提供する Learning Agreement 型国際共同学位プログラム		
海外の相手大学	エコール・サントラル・グループ（フランス）、アーヘン工科大学（ドイツ）、ミュンヘン工科大学（ドイツ）、ミラノ工科大学（イタリア）、ジェノヴァ大学（イタリア）、ワルシャワ工科大学（ポーランド）、ブリュッセル自由大学（ベルギー）、ルーヴァンカソリック大学（ベルギー）、王立工科大学（スウェーデン）、T.I.M.E Association 加盟大学（その他）		

〔評価コメント〕

本プログラム計画は、貴学が長年にわたって運用してきた欧州有力大学とのダブル・ディグリー（DD）プログラムを発展させるものであり、半導体、量子技術、バイオ技術など重点分野に照準しつつ、互いに強みを提供しあう相補的なダブル・ディグリー（DD）プログラムを、Learning Agreement に基づいて人材育成目的を共有しつつ構築する意義は高く評価できる。

貴学の理工学部・理工学研究科独自の国際化目標に組み込まれた計画として、学部・研究科全体の国際化に資するスケールの大きなプログラムであり、今までの実績と合わせ、実現性も高いと見込まれる。

また、ECTS との単位互換や成績評価方法にこれまでの経験を活かした実効的な方法が検討されている点や、短期研修や交流イベントなどの参加学生の動機付けを含めた留学前プログラムが豊富に用意されている点など、プログラム運用の実際上の設計も周到である。

一方で、従来型のダブル・ディグリー（DD）プログラムも並行して実施される計画の遂行において、新しい試みとしての Learning Agreement 型 DD が、従来型のダブル・ディグリー（DD）プログラムに対してどのような利点を持ち、どれくらい高い教育効果・人材育成実績につながるかの検証を求めたい。

最後に、今回選定された貴学においては、将来の我が国と相手国との関係を見据え、質保証を伴う国際教育連携の先導的モデルに中心となって取り組む拠点大学であるということの意義とその責任、期待の重さを認識し、事業内容の実現に向け真摯に取り組まれることを強く要請する。